

# 美術鑑賞教材『アート・シャワー』の作成と試行

河合規仁

## 1. はじめに

学校教育における美術教育では、1989年（平成元年）の小学校学習指導要領の改訂において、鑑賞を重視することが示されるようになり、現行の『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説図画工作編』においても「〔B鑑賞〕の指導については、指導の効果を高めるため必要がある場合には、児童や学校の実態に応じて、独立して行うようにすること」<sup>1)</sup>と示されている。こうした背景のもと、日本美術教育学会研究部が図画工作科における鑑賞学習指導についての全国調査<sup>2)</sup>を行い、教育現場における教員の意識調査をしている。その報告の中で鑑賞学習指導に関して「提示する資料が乏しい」と思っているのが63.8%、「資料の収集方法がわからない」では41.8%であると報告している。また、鑑賞学習指導を充実させる上での「資料の収集」の必要性では、95.8%、また「美術に関する資料の充実」の必要性においても92.4%と高く、鑑賞学習において、提示する資料が十分でないことが伺える。

筆者も小学校教員養成に携わるなかで、学生自身の美術作品鑑賞体験の充実を図ることが課題であると考えながらも提示する適切な資料や提示方法などに困難を感じていた。学生に対し、美術には多種多様な表現が存在しており、それを学生自身が認識しているのかを調査した結果、「美術作品には様々な表現があることを知っていると思う」の設問に対し、「そう思う（6.00%）」、「まあまあそう思う（48.00%）」あわせて5割強であった。小学校教諭を志し、子どもへ教授する立場になることを考えれば、学生が美術の多様な表現を知ることは、発達段階における表現の推移の認識とは別に、子どもの個々の表現を受けとめる際の認識の幅の広がりにも貢献するものであると考える。

今回、知識の教授に重きを置かず、対話型形式でもなく、また選んだ少数の作品をじっくりと鑑賞するといったものではない方策を検討したいと考える。視覚的情報に特化し、とにかく大量に様々な時代、地域、作家、表現スタイルを扱い、表現の多様さを感じてもらうことを目的とした鑑賞教材を作成し、鑑賞教材としての有効性を検証する。

## 2. 鑑賞教材『アート・シャワー』の作成

多くの芸術作品を論理的に深く考え過ぎることなくまるでシャワーを浴びるように感覚的に触れてほしいとの考えから「アート・シャワー」と名付けた。鑑賞において作品の実物を見ることが望ましいと考えるが、美術館の利用や大量の作品を鑑賞したいとなると実質的に困難である。また、学内図書館所蔵の大型の全集を何冊も講義室に運び、授業において多くの学生を対象にページをめくりながら鑑賞することも多大な労力を要すると共に教育的効果も疑わしい。三根（2000）は、実物、スライド、図版、ビデオを使った鑑賞授業の実践を行い、児童の記述内容を分析した結果から、授業で用いるのは、必ずしも実物が最適であるとは言えないことを報告しており、実物でなければ十分な鑑賞の学習ができないとは断定できないとしている<sup>3)</sup>。今回は講義室で使用できる簡便性を考え、ICTを活用し、デジタルデータ化した図像をプロジェクターでスクリーンに投影する提示方法を採用することが適していると考えた。

また、白井ら（2018）の作品提示メディアに関する調査結果では、多くの教員は鑑賞の授業においては平面作品を扱っており、立体作品を扱っているのは少数であると報告しており、その理由として、立体は多くの角度から見る必要があることや立体の場合は大きさや質感の読み取りが平面的な資料では不十分であること、また、スクリーンで立体を表示しても質感が伝わりにくいなどが挙げられていた<sup>4)</sup>。これをふまえ、今回扱う作品の内容においては平面的な表現に限定することとした。

画像資料収集においては、画集の画像をスキャンしたものおよびインターネットからダウンロードした画像の中から選定作業を繰り返し、最終的に全900点で構成した（表1）。中には、作品の一部を拡大した画像を掲載している画集もあり、それを活用したものや、同時期、同様式の作品で細長い作品は2点並列して提示したものが7点ほどあり、画像データの総数は893となった。

作品選定においては、極力多種多様な表現の存在を知ってもらうことを目的に行い、大まかに西洋、東洋に分け、おおよその制作年代順に並べた。一部、「受胎告知」および「聖母子像」のテーマで描かれている作品はまとめてみた。

表1 使用画像出典と枚数

| 出典                       | 使用画像数 |
|--------------------------|-------|
| 世界美術大全集 第5巻 古代地中海とローマ    | 5     |
| 世界美術大全集 第10巻 ゴシック2       | 23    |
| 世界美術大全集 第11巻 イタリア・ルネサンス1 | 12    |
| 世界美術大全集 第12巻 イタリア・ルネサンス2 | 10    |
| 世界美術大全集 第13巻 イタリア・ルネサンス3 | 18    |
| 世界美術大全集 第14巻 北方ルネサンス     | 39    |
| 世界美術大全集 第15巻 マニエリスム      | 23    |
| 世界美術大全集 第16巻 バロック1       | 11    |
| 世界美術大全集 第17巻 バロック2       | 28    |
| 世界美術大全集 第18巻 ロココ         | 13    |
| 世界美術大全集 第19巻 新古典主義と革命期美術 | 21    |

| 出典                             | 使用画像数 |
|--------------------------------|-------|
| 世界美術大全集 第20巻 ロマン主義             | 27    |
| 世界美術大全集 第21巻 レアリズム             | 35    |
| 世界美術大全集 第22巻 印象派時代             | 20    |
| 世界美術大全集 第23巻 後期印象派時代           | 17    |
| 世界美術大全集 第24巻 世紀末と象徴主義          | 29    |
| 世界美術大全集 第25巻 フォーヴィズムとエコール・ド・パリ | 28    |
| 世界美術大全集 第26巻 表現主義と社会派          | 40    |
| 世界美術大全集 第27巻 ダダとシュルレアリズム       | 39    |
| 世界美術大全集 第28巻 キュビズムと抽象美術        | 32    |
| 世界美術大全集 東洋編 第2巻 秦・漢            | 2     |
| 世界美術大全集 東洋編 第4巻 隋・唐            | 6     |
| 世界美術大全集 東洋編 第5巻 五代・北宋・遼・西夏     | 9     |
| 世界美術大全集 東洋編 第6巻 南宋・金           | 17    |
| 世界美術大全集 東洋編 第7巻 元              | 8     |
| 世界美術大全集 東洋編 第8巻 明              | 16    |
| 世界美術大全集 東洋編 第9巻 清              | 3     |
| 世界美術大全集 東洋編 第10巻 高句麗・百済・新羅・高麗  | 2     |
| 世界美術大全集 東洋編 第11巻 朝鮮王朝          | 18    |
| 世界美術大全集 東洋編 第13巻 インド（1）        | 1     |
| 世界美術大全集 東洋編 第14巻 インド（2）        | 11    |
| 世界美術大全集 東洋編 第15巻 中央アジア         | 4     |
| 世界美術大全集 東洋編 第17巻 イスラーム         | 9     |
| 日本美術全集 第2巻 法隆寺と奈良の寺院           | 3     |
| 日本美術全集 第5巻 王朝絵巻と貴族のいとなみ        | 5     |
| 日本美術全集 第6巻 東アジアのなかの日本美術        | 4     |
| 日本美術全集 第8巻 中世絵巻と肖像画            | 14    |
| 日本美術全集 第9巻 水墨画とやまと絵            | 5     |
| 日本美術全集 第10巻 黄金とわび              | 4     |
| 日本美術全集 第11巻 信仰と美術              | 9     |
| 日本美術全集 第12巻 狩野派と遊学図            | 14    |
| 日本美術全集 第13巻 宗達・光琳と桂離宮          | 14    |
| 日本美術全集 第14巻 若冲・応挙、みやこの奇想       | 12    |
| 日本美術全集 第15巻 浮世絵と江戸の美術          | 20    |
| 日本美術全集 第16巻 激動期の美術             | 21    |
| 日本美術全集 第17巻 前衛とモダン             | 25    |
| 日本美術全集 第18巻 戦争と美術              | 28    |
| 日本美術全集 第19巻 拡張する戦後美術           | 23    |
| 日本美術全集 第20巻 日本美術の現在・未来         | 16    |
| 原色日本の美術 第31巻 近代の洋画             | 6     |
| 原色現代日本の美術 第1巻 近代の胎動            | 5     |

| 出典                    | 使用画像数 |
|-----------------------|-------|
| 原色現代日本の美術 第7巻 近代洋画の展開 | 6     |
| 原色現代日本の美術 第8巻 前衛絵画    | 5     |
| 原色現代日本の美術 第9巻 現代の日本画  | 15    |
| 原色現代日本の美術 第10巻 現代の洋画  | 14    |
| 原色現代日本の美術 第18巻 明日の美術  | 16    |
| インターネットより             | 40    |
| 合計                    | 900   |

### 3. アート・シャワーの試行

#### (1) 実施日

平成30年11月5日

#### (2) 対象

T大学人間科学部子ども教育学科学生51名（図画工作教育法履修者）

#### (3) 実施方法

PCのスライドショー機能を使い、講義室スクリーンに映像を投影した。900枚の画像を1枚につき約2～3秒の放映で、全部で45分程度の放映を行った。

放映にあたり、作品についての解説やスライドショーの構成について説明等は一切せずに行った。

### 4. アンケート調査

#### (1) 実施日

1回目：平成30年11月5日

2回目：平成30年11月19日

#### (2) 対象

T大学人間科学部子ども教育学科学生50名（図画工作教育法履修者）

#### (3) 調査内容

視聴の前後において鑑賞活動に対する興味関心の変化を推し量るため、「芸術作品を鑑賞することに興味・関心がありますか」を設問し、「とてもある」、「ある」、「どちらともいえない」、「あまりない」、「全くない」の5段階で回答してもらった。あわせて、美術作品における表現をどれくらい認識しているのかを推し量るため、「美術作品には様々な表現があることを知っていると思いますか」を設問し、「思う」、「まあまあそう思う」、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「思わ

ない」の5段階で回答してもらった。

視聴後にアート・シャワーに関しての感想として「アート・シャワーを見る（芸術作品を見る）ことは楽しかったですか」を設問し、「大変楽しかった」、「楽しかった」、「どちらともいえない」、「あまり楽しくなかった」、「全く楽しくなかった」の5段階で回答してもらった。あわせて理由を自由記述にて回答してもらった。

また、アート・シャワー視聴により、芸術作品および鑑賞活動への興味、意欲への影響を調査するため、「芸術作品に興味を持ちましたか」、「これからの生活の中で芸術作品を鑑賞しようと思いますか」、「これから作品をつくる際、役に立つと思いますか」、「このような機会があれば、また見たいと思いますか」、「今回見た作品以外の作品を見たいと思いますか」の設問に対し5段階で回答してもらった。

あわせて画像1枚あたりの放映時間、全体の放映時間、放映した画像に対する感想、最適と思われる放映時間について調査した。そして、使用画像の内容についての満足度と画像以外であったらよいと考える情報は何かを「制作年代」、「国・地域」、「作家名」、「作品名」、「大きさ」、「技法・材料」、「作品の解説」、「その他」の項目に対し、複数回答可で答えてもらった。また、アート・シャワーの改善点として、「西洋と東洋を分類する」、「モチーフで分類する」、「立体作品も扱う」、「広く他の分野（デザイン、工芸、建築など）も扱う」、「制作年代別に時系列で表示する」、「拡大などの効果を取り入れる」、「画面の切り替えに工夫を凝らす」、「BGMを流す」、「1点1点をじっくり見せる」、「その他」の項目に対し、複数回答可で答えてもらった。

## 5. 結果および考察

### (1) アート・シャワー視聴の感想

アート・シャワー視聴の感想として「大変楽しかった」7.84%、「楽しかった」62.75%、「どちらともいえない」27.45%、「あまり楽しくなかった」1.96%、「全く楽しくなかった」0.00%という結果となった（図1）。

7割弱が視聴を楽しく感じたようであるが、「あまり楽しくなかった」と回答した理由には、「速くて何が何だか考えるまでに次に進んでしまう」と1枚当たりの映写時間の短さへの不満の意見があった。また、「どちらともいえない」と回答した理由には、「イエス・キリスト関連の作品はちょっと苦手」、「好きな絵もあれば嫌いな絵もあったから」など絵の内容への好みが影響したものや「わかるやつと、よくわからないやつがあった」、「何を表しているのか分からない絵がけっこうあったから」、「上手いかどうかよく分からないから」など自分の理解度が影響したものがあつた。また、「スライドのテンポがはやくて目が疲れる」、「少し長かったです」、「はじめは見ていて面白いと思ったが、ずっと見ていると少し飽きてしまった」、「タッチや絵の迫力がすごくおもしろかったが、多く見るのが少し大変だった」など、放映の仕方や量が影響したものがあつた。「大変楽しかった」、「楽しかった」と回答した理由として、「様々なジャンルの作品を見ることができた」、「いろんな時代の作品が見ることができた」など多種多様な作品や表現を見ることができたことを理由に挙げているものが多く、「普段見ないジャンルに触れられた」、「見たこ



とのない絵画を見るのも面白かった」、「あまり見に行ったりする経験がなかったので面白かった」など新たな作品に触れたことを理由に挙げたものや「色々な作品を短時間でたくさん見ることができた」、「芸術は深い」、「芸術とは幅広いのだと改めて感じた。似たような絵もあったので、時代背景や流行などを絵で感じられるのが楽しく感じる」、「絵だから表現できる世界観が沢山見られた」など、大量な情報を与えたことにより俯瞰的に表現を捉えた意見もあった。

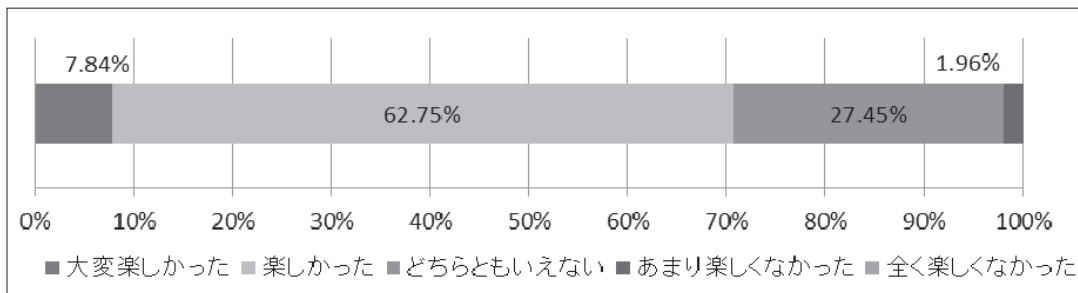


図1 アート・シャワー視聴の感想

(2) 美術作品の多様な表現の認識について

美術作品の多様な表現の認識に関しては、視聴前の「思う (6.00%)」、「まあまあそう思う (48.00%)」をあわせて、54.00%であったものが、視聴後には96.00%と大幅に高くなった (図2)。

前述したアート・シャワー視聴の感想にもあるように多くの芸術作品を見る機会となり、表現の多様性を認識することができる効果があると考えられる。

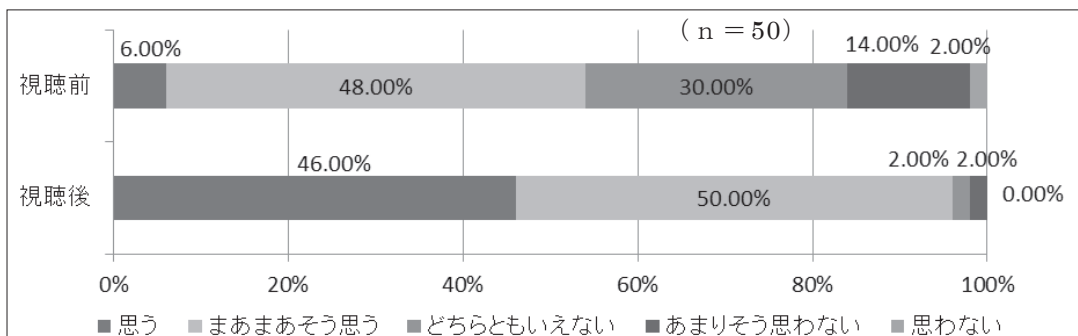


図2 美術作品の多様な表現の認識

(3) 芸術作品を鑑賞することの興味・関心について

芸術作品を鑑賞することの興味・関心に関しては、視聴前の「とてもある (3.92%)」、「ある (39.22%)」をあわせて43.14%であったものが視聴後では、56.00%となった (図3)。

アート・シャワーを視聴し、様々な芸術作品に触れることにより多少なりとも鑑賞することの面白さが伝わったのではないかと考える。

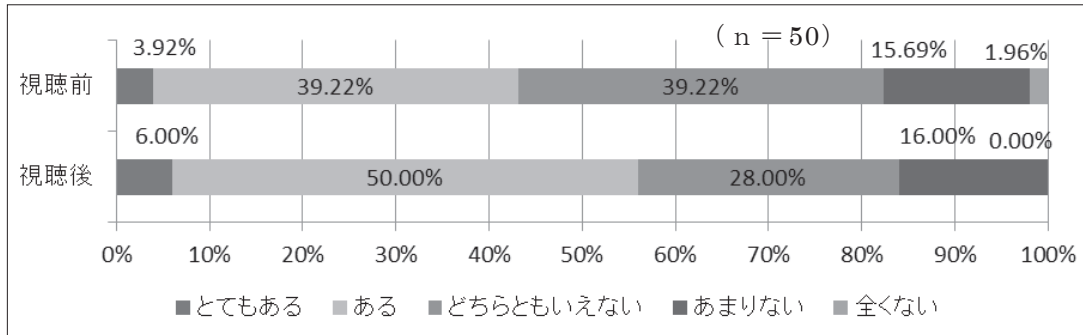


図3 芸術作品鑑賞の興味・関心

(4) アート・シャワー視聴による効用について

アート・シャワー視聴による効用として、芸術作品への興味に関しては、「大変興味を持った (5.88%)」、「興味を持った (56.86%)」をあわせて62.74%が興味を抱いた結果となった (図4)。

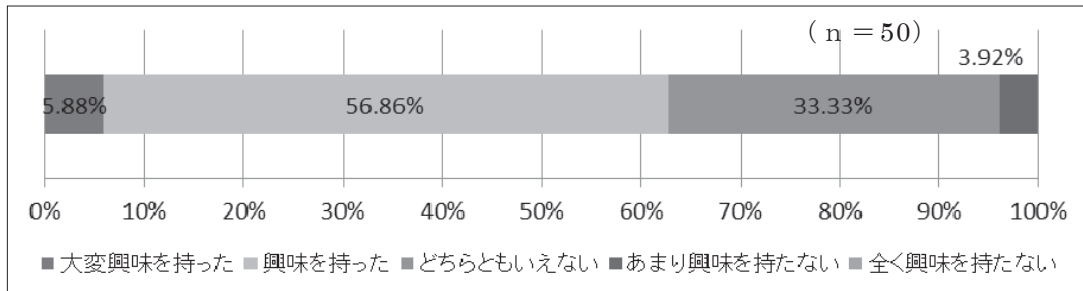


図4 芸術作品への興味・関心

(5) 鑑賞活動への意欲について

鑑賞活動への意欲に関しては、「これからの生活のなかで芸術作品を鑑賞しようと思いませんか」の設問においては、「大変思う (5.88%)」、「思う (29.41%)」をあわせて35.29%となった (図5)。あわせて、「このような機会があれば、また見たいと思いませんか。」の設問においては、「大変思う (7.84%)」、「思う (54.90%)」をあわせて62.74%となった (図6)。「今回見た作品以外の作品を見たいと思いませんか」においては、「大変思う (15.69%)」、「思う (49.02%)」をあわせて61.71%となった (図7)。

これらのことから芸術作品への興味はあり、授業等で鑑賞活動をすることには比較的意欲的であるものの自発的に鑑賞をするといった意欲は低いと考える。

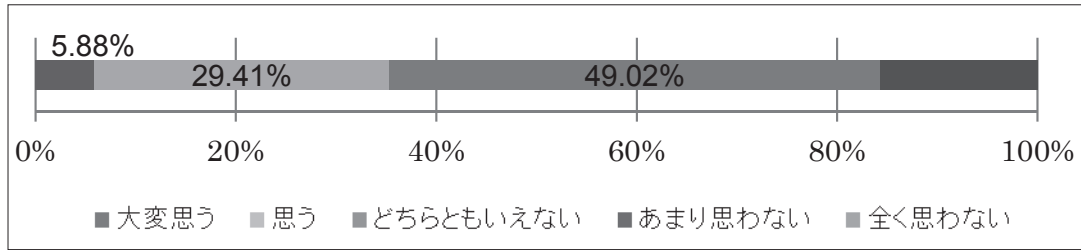


図5 鑑賞活動への意欲

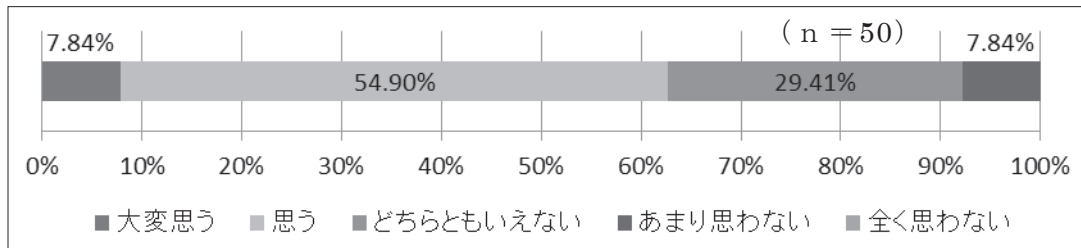


図6 アート・シャワー視聴の意欲

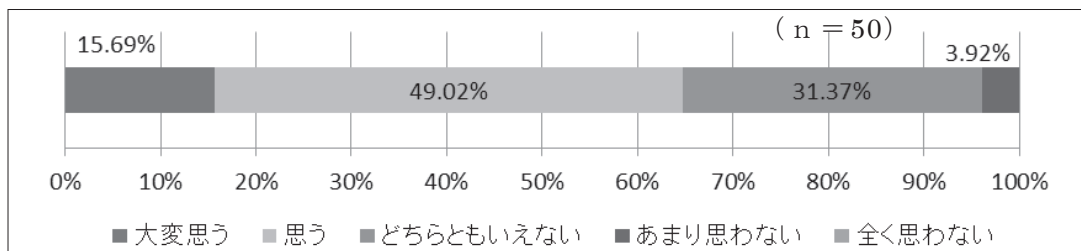


図7 アート・シャワーの異なる内容の視聴希望

(6) 制作活動への影響について

制作活動への影響について、「これから作品をつくる際、役に立つと思いますか」の設問の結果、「大変思う (3.92%)」、「思う (37.25%)」をあわせて41.17%となった(図8)。

小学校学習指導要領解説にも「表現と鑑賞はそれぞれに独立して働くものではなく、互いに働きかけたり、働きかけられたりしながら、一体的に補い合って高まっていく活動である」<sup>10)</sup>と示されているようにアート・シャワーの視聴が今後の表現活動に役立てばと考える。

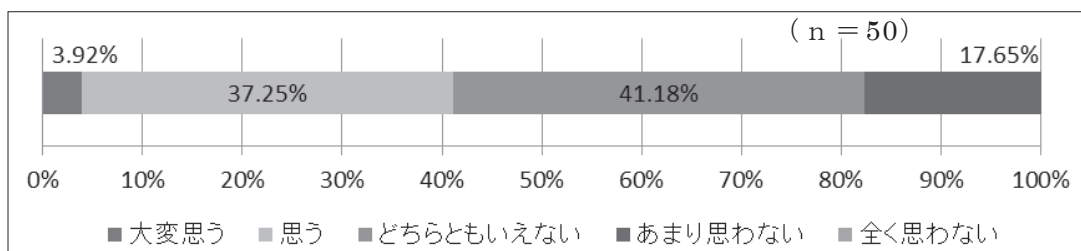


図8 制作活動への影響



(7) アート・シャワー放映時間について

アート・シャワー編集に関するものとして、画像1枚あたりの放映時間については「ちょうどいい」(52.29%)、「短い」(45.10%)と「短すぎる」(19.60%)をあわせると64.70%となった。

今回は1枚につき2～3秒で行ったわけだが、確かに画面の隅々までじっくり見るには少々短く感じないわけでもない。しかし、大量の作品を提示するためには1枚の提示時間を調整する必要がある。全体の放映時間との兼ね合いで検討が必要であると考えている。

続いて全体の放映時間については、「長すぎる」(9.80%)、「長い」(56.86%)、「ちょうどいい」(27.45%)、「短い」(3.92%)、「短すぎる」(1.96%)となった(図9)。

また、最適と思う放映時間については、表2の通りとなり、具体的な数値を回答したものを平均すると23.6分であった。

今回の約45分程度の映写時間では、集中して鑑賞するには少々長すぎたのかもしれない、検討が必要であると考えている。

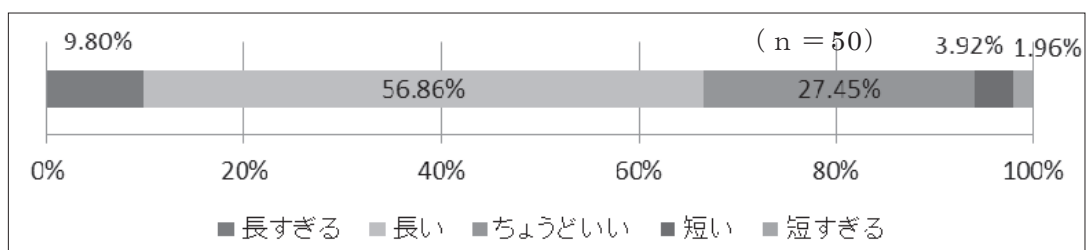


図9 全体の映写時間について

表2 最適と思う放映時間

| 5分以内 | 10分 | 15分 | 20分 | 30分 | 45分 | 50分 | 60分 | 120分 | いくらでも |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-------|
| 6名   | 9名  | 7名  | 9名  | 8名  | 2名  | 2名  | 3名  | 1名   | 1名    |

(8) アート・シャワー使用画像について

使用画像の内容についての満足度は、「満足」が58.82%、「どちらともいえない」が39.22%となった。「不満」と回答したのは1.96%のみで、使用した画像の内容には問題はないようである。

回答理由として肯定的なものは、多種多様な表現、時代や地域の異なる作品群を見ることができたことや、見たことのない作品を知ることとなったことが挙げられた。否定的なものとして、立体作品も見てみたいとの意見や絵の一部だけの表示、提示した画像に小さいものがあり、見づらかったとの意見があった。

アート・シャワーの放映において画像以外で必要と思う情報については表3の通りであった。

作品の解説を求める値は低く、題名や作家名を知りたいという傾向があることが分かった。

表3 画像提示以外に必要な情報

|          |    |        |
|----------|----|--------|
| 1. 制作年代  | 14 | 27.45% |
| 2. 国・地域  | 7  | 13.73% |
| 3. 作家名   | 27 | 52.94% |
| 4. 題名    | 32 | 62.75% |
| 5. 大きさ   | 1  | 1.96%  |
| 6. 技法・材料 | 5  | 9.80%  |
| 7. 作品の解説 | 5  | 9.80%  |
| 8. その他   | 0  | 0.00%  |

## 6. まとめ

『アート・シャワー』は、鑑賞教材として芸術作品の表現の多様性を感じることでできる教材として有意義であることがわかった。しかし、扱った作品は平面表現のみであることから、他の分野においても今後考慮する必要がある。

また視聴するにあたって全体の放映時間が長くなる分、集中力が保てず、十分な鑑賞ができなくなることから、900枚の画像をさらに厳選し放映時間を短くする、複数回に分けて視聴するなどが考えられる。様々な表現を大量に俯瞰することで見えてくる効果を失わない様、今後さらに実践を重ね検討していく必要がある。

また、画集に掲載されていた作品の一部を拡大した画像を深く考えず使用してしまい、アンケートにおいても指摘されたのだが、本来作品は全体を示すことが大前提であるのだが、作品自体が大きすぎて全体を取り上げると細部の描写が全く認識できないもあり、苦悩するところである。作品全体のイメージを伝えることも重要であるが、細かい描写を見てもらいたいと考えるならばトリミングし拡大された画像を提示することも良いのではないかと考える。その際には、全体と部分の両方を提示するなどの配慮が必要であると考えます。

画像以外の情報に関して、題名や作家名の情報は欲しいという意見があったが、確かに題名により、その作品をより深く理解したい気持ちもわかるが、『アート・シャワー』では、論理的ではなく、感覚的に芸術作品の多様な表現に触れてもらいたいと考え、あえて提示はしないこととする。しかし、必要に応じて後で情報を提供できるためのリスト作成は必要であると考えます。

今回の経験から、文化受容者として美術作品の鑑賞を日常的に楽しむきっかけとなればと考える。

## 【参考文献】

- 1) 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）図画工作編』日本文教出版、2018
- 2) 日本美術教育学会研究部『図画工作科における鑑賞学習指導についての全国調査』

- 集計』 [http://www.aesj.sakura.ne.jp/html/2014kansyo\\_results\\_es.pdf](http://www.aesj.sakura.ne.jp/html/2014kansyo_results_es.pdf)（アクセス  
2018.10.20）
- 3) 三根和浪『小学校美術鑑賞作品提示メディアの研究』2000. 美術科教育学会誌第21号. pp.265-275
  - 4) 臼井昭子、佐藤克美、堀田龍也『中学美術科の鑑賞学習における作品提示メディアに関する調査研究』2018. 教育メディア研究 Vol.24. No 2. pp.13-28
  - 5) 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）図画工作編』日本文教出版. 2018. pp.10